



カブトムシの夏、到来

サウジアラビアでは、先日気温が51.8℃に達し、多くの犠牲者が出たそうです。昨年の夏、国連事務総長が「地球温暖化の時代は終わり、地球沸騰の時代が到来した」と、気候変動による最悪の事態を訴えたことが現実になっています。

気候変動の影響を受けるのは人間だけではありません。むしろ気温の変化に順応できない変温動物の方が深刻です。今年のカメムシの大発生も無関係ではありません。昨年の秋から園で飼育しているカブトムシも、本格的な夏を前に次々と羽化しています。3歳以上児クラスで、約60匹の幼虫をお世話していましたが、5月末にはサナギに、そしてそれらが今羽化ラッシュを迎え、子どもたちは大興奮。



本園は、豊かな自然に囲まれているため、野鳥はもちろん生き物がたくさんいます。ケムシやムカデのような危険な虫もありますが、子どもに人気の虫もたくさんいます。カニ、セミ、バッタ、カマキリ、カタツムリ、ダンゴムシ、カブトムシ、クワガタ…。先日はプールにいたたくさんのオタマジャクシを教員がすくい、みんなでその成長を見守っています。

子どもは虫が大好きです。幼児期の子どもは、虫そのものというより、虫を追い、捕まえること自体を楽しみます。捕った虫をどうするかより、まずそれに触ってみたい、遊びたい、そして自慢したいというのがすべて。子どもにとってみれば捕まえた虫はおもちゃと全く同格で、死んで動かなくなったものは壊れたおもちゃと同じ。でも実はそれが自然な姿です。残酷のように見えますが、幼児期は、脳の発達上自己中心的なとらえ方しかできません。虫がかわいそうとかいった感情が芽生えるのは、年長から小学生になってからだと言います。むしろ幼少期にしっかり生き物とかかわることが、命の尊さを深く理解する基盤になるのでないでしょうか。

クラスでは、ペットボトルの中のカブトムシの幼虫が、脱皮をしてサナギになっていく様子を子どもたちは目の当たりにしました。そして、サナギの皮を脱いでついに成虫の姿を見せていく瞬間も見逃してはいません。あの白くて親指のような幼虫が、黒光りしたたくましい成虫に変身するのでから感動です。やさしく声を掛ける子もいます。

アンリ・ファールは、「虫という最も小さなものに最大の驚きが隠されている。」と言っていました。虫に触れることにより、不思議の世界への扉が開かれ、そこから探究心が生まれ、科学する目と命の神秘を敬う心が育っていきます。ノーベル賞を受賞した福井謙一、小柴昌俊、白川英樹博士たちはかつては昆虫少年だったそうです。もっとも、虫への興味には個人差がありますので、すべての子どもというわけではありません。

子どもたちが大事に育てたカブトムシは、7月27日に行う本園のカブトムシフェスタ、そして8月3日に行われる向井小学校区の地域の夏祭りでお披露目する予定です。ぜひご参加いただき、今年はカブトムシといっしょに夏を満喫してみられませんか。（園長 寺本 明生）

下関短期大学付属第二幼稚園主催 カブトムシフェスタ

**あやまれ
こんちゅうの森**



令和6年 7月27日(土)
午前6時～8時 (受付は7時半まで)

集合場所 しものせきたんきだいがくふせくだいにようちえん
下関短期大学付属第二幼稚園
下関市彦島塩浜町2丁目-2-1

- 第二幼稚園の山(栗・クヌギ林)を昆虫好きな子どもたち(幼児や小学生)に開放します。前日にカブトムシなどを集めるえさを吊るしています。
- 事前の申し込みはありませんが、必ず保護者といっしょにご参加ください。
- 雨天時は中止となります。中止の場合は、当日の朝5時にホームページでお知らせします。
- 参加料はかかりません。また、ゲットした昆虫は自由にお持ち帰りください。
- くわしくはホームページをご覧ください。
- お問い合わせ先 ☎083-266-5821 (第二幼稚園)

